

定例教育委員会会議録

令和3年9月29日

境港市定例教育委員会（令和3年9月29日委員会会議録）

招集年月日 令和3年9月29日 15時30分

招集場所 市役所第一会議室

開 会 15時30分 教育長宣言

教育委員会 教育長 松本 敏浩

委 員（職務代理者） 中田 耕治

委 員 十河 淳 渡邊 不二子 徳永 由樹

教育長から説明のため出席を求められた者

教育委員会事務局長 松 原 隆

教育総務課長 亀 井 功

教育総務課長補佐兼指導係長 柳 樂 力 人

生涯学習課長 松 本 昭 児

教育総務課長補佐兼管理係長 足 立 統

傍聴者数 なし

会議書記 教育総務課長補佐兼管理係長 足 立 統

提出議案 なし

協議事項 学力・学習状況調査について

報告事項 9月の行事報告、10月の行事予定

【1. 開会】

松本教育長

ただいまから9月の定例教育委員会を始めます。

【2. 前回議事録承認】

【3. 議事】

松本教育長

本日は議決事項がありませんので、協議事項と報告事項になります。それでは、学力・学習状況調査について事務局より説明をお願いします。

柳楽補佐より説明

松本教育長

ただいまの説明について質問等ありますでしょうか。感想でも良いです。

渡邊委員

厳しい状況ではあると思いますが、先ほど話があったようにテストも思考力やデータを活用するといった普段の単元テストにはない形の問題が含まれているので、そういったものに不慣れな部分が出ているかなと思います。慣れというところが非常に大事なので、普段の授業の中にそういったものを取り入れるような授業者側の創意工夫が必要で、実際されているとは思いますが、足りていない部分があるのかなと考え、そういった部分を先生方といっしょに開発していただけたらと思います。

松本教育長

ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。

中田委員

子どもたちも大変だなというところが第一印象です。国語にしても算数にしても基本になるところは読解力だということを改めて感じました。データの読み取りや話の構成といった部分は経験があって身につけてくるところだと思いますので、学校の授業でいくらやっても、それを実践する場がないと難しいでしょうし、話の構成もいろいろな話を聞いたうえで、いざ自分が発表する立場になって初めてわかる部分もあったりします。個々の子どもたちの性格もあると思いますが、自分が先頭に立って話す、リーダーシップをとって話すという土壌を作っていたきたいと思います。実際自分の子どもの頃を振り返ってみても、ものが言える子どもではなかったので、いろんな人の話

を聞いて、その場で自分がどのような発言をするかというところを考える、その積み重ね、経験が必要かと思います。

十河委員

授業を見させていただくと、先生方もすごく工夫されていて、子どもたちもしっかり理解できているようにうなずいている姿が見られますが、それが家庭学習につながっていないのはなぜかなと思います。ゲーム時間が少ない子は正答率が高いということまでわかっているので、これを保護者にしっかり伝えていただき、保護者と学校が一緒になってやってもらいたいです。保護者の方が手紙を見て、結果だけを見て終わってしまうのではなく、分析結果についてもしっかり認識してもらうことが大事だと思います。また、一人一台端末になったので、自宅に持ち帰って、続けて学習ができるような環境、宿題のようないやいやするような感じではなく楽しみながらできるような感じで、一問解けたら次はこんなこともできるというような学習ができると良いと思います。一人一台端末になり、良いきっかけでもあるので、自分にあった学習というところを見つけていただき、宿題も本当に必要かどうかはわかりませんが、最近は「けテぶれ」（計画→テスト→分析→練習）という言葉もあるようなので、いろいろなことに挑戦して、いろいろな取り組みを実践してもらえると良いと思います。保護者にしっかり現状を伝えて、本当に大変であるというところをしっかりと認識してもらう必要があるかと思います。

松本教育長

意見を伺いましたが、事務局の方でこういった考えがあるというところがありますか。

柳楽補佐

渡邊委員が言われた「思考、判断、表現を問うというところに慣れていない」というところは、そのとおりだと思います。県とも協力しながら、現在中学校を中心にそういったテストを作っていくことを進めております。思考、判断、表現を問うというところを含めて、どういった形が良いのか、どのように子どもたちの力を見取っていくのかというところの検証を去年から始めています。そういったテストをしようと思うと授業の中で子どもたちが思考、判断、表現力を鍛えるような授業構成が必要になりますので、そこにもアクセスしてやっていくことが大切だと思います。中田委員が言われた経験というところは、

国語、算数、数学というところだけではなく、子どもたちが一日の生活の中で人と関わって人の意見を聞く場面というところはたくさんありますし、データについても算数でやっているときだけでなく、そこで学んだデータの見方というところを例えば社会や理科でもいろいろ資料を使うと思うので必要になります。また、総合的な学習の時間の中でも各学年が子どもたちの課題に応じて活動をされており、学年に応じて、どんな資料を持ってきたらよりわかりやすくなるのか、そういったところを意識した教員の指導が大切です。あわせて、それができているところを評価して、良いところを広げていくことが大事だと考えています。十河委員が言われた家庭学習の部分や保護者の意識というところは、今CSの方でもそれぞれの目指す子ども像について、それぞれの校区でも取り組んでいただいております。その中で学習の状況についても課題等を学校の方から上げていただいて、「家庭でどのようなことができるか」、「それなら地域でもこういったことができるのではないか」という感じで動いていただくことがすごく大事だと考えております。例えば、余子公民館では、放課後子どもたちの学習に寄り添う機会や体験という部分で公民館が持っている講座に子どもが参加するという機会を考えてもらっております。また、定着という部分ではこれからの話になりますが、せっかくタブレットが導入されていますので、終わりの会が終わった後に5分程度、長くても10分までで一教科やって帰るといったようなことができると定着につながるかなど、自分でできたということが実感できて、今日はこの問題ができたので、明日はもう一つ上の問題にチャレンジするという雰囲気になると良いと思います。

結果が出ている学校は書くこと一つとっても違って、例えば1、2年生の子どもでもマスいっぱいきちんとした文字を書いています。また、道徳の感想でも書く量が圧倒的に他校より多く、きちんと指導が入った文字を書いています。さらにこれは以前から先生方で徹底されていたのですが、できた子どもを退屈させないという工夫がなされていて、早くできて周りの友だちを手伝ってあげることも大事なのですが、更に上の問題というのが必ず準備されていて、次にチャレンジできるようになっています。それができるためには、授業をきちんとコントロールしながら、子どもが一人でしっかり取り組む時間を確保し、練習問題をやる時間がなくなるような授業構成がで

きている必要がありますので、そこが優れているのかなと思います。もう一つは、その学校で例えば1、2年生で何か提出物を集めると100%次の日に集まるということなので、学校教育に関する家庭の意識をいかに高めるか、学校に引き付けるかというところが優れているのだと思います。

松本教育長

学校での学習を家庭につなげるということを願うのですが、「家庭に任せてできるのか」という辺りに不安を感じていて、家庭も悩んでいるのではないかと思います。なぜかというところ今のデータとか柳楽補佐の話の聞いていると、子どもたちは教わるという学習に慣れていて、自分が学ぶという学習ができていない、学習に対する独り歩きができないという状態で、家に帰って家庭学習するかというと、宿題が出されればするとは思いますが。ただ、自ら課題を設けて学習するかということそこまでの力がついていない。遊びでもそうで、自分たちだけでは遊ばなくて大人がいて見守る、審判をするという環境じゃないと遊びができないような状況です。それは勉強も同じで先生が教室の中で教えてくれるという学習には非常におとなしく行儀よくついてきますが、独りになるとできない。家に帰ってなぜゲームをするかと言うとゲームの中にはルールがあるので、それに従えば良い、自分でルールを作るのではなく、決められたルールに従ってゲームを進めるだけで楽しい経験ができる、だからゲームに走ってしまう。そういった根本的なところを考えると独り歩きさせるという力をどうやってつけさせるかというところは学校と家庭がつながっていかないとこの傾向はいつまでたっても変わらないのではないかと思います。学校とも共有して境港の授業感を作っていたきたいと思います。

中田委員

データの見方というところで考えると、学校では教科を勉強する、家庭では国語や算数といった指導の部分がなかなかできないということであれば、基本的な物の考え方、勉強の考え方、やり方というところの話ができるような家庭を作っていただいて、学校で国語の考え方を算数に活かす、算数の考え方を理科に活かすといった物の考え方の構成が必要になると思います。それから資料を見ているとテレビゲームやコンピュータゲームは勸善懲悪になっていますが、今の環境というのはそれらを全部ひっくるめたコンピュータの環境なので、子どもたちにこれ

は良い、これは良くないという指導ではなく、自分たちで考えてバランスをとるという指導が必要じゃないかと思います。一人一台端末と言われても勉強の仕方にしてもその中にゲーム性を持たせることは興味を持たせるために必要になってきますので、全部ひっくるめた上でどう付き合っていくのかというところを考える必要があると思います。今までとは考え方を考える必要があると思います。

徳永委員

子どもが小学校の時に学力テストで良い点をとるとか、うちの子はどれくらいなのかというところは正直あまり気にしていませんでした。学校からの手紙も平均点より良いとか悪いとかくらいで、あまり読んでなかった気がします。手紙については毎年同じ感じがして、もう少し身近な目標、例えば「鳥取県で一番になろう」とかあると、親も子どもも目標ができ、点をとるにはどうしたら良いかというところを考え、そこに向かっていけるかなと思います。

松本教育長

今いただいた視点を学校とも共有しながらやっていきたいと思っています。そのほかよろしいでしょうか。それでは報告事項に入ります。

【4. 報告事項】

《教育総務課 生涯学習課 行事等報告》

松本教育長

ただいまの説明について質問等ありますでしょうか。

十河委員

伊平屋村教育交流事業で若鳥丸に乗船された子どもの人数は何人ですか。

柳楽補佐

11人です。

十河委員

大人の方も一緒ですか。

柳楽補佐

今回は子どもたちと市のスタッフだけでしたが、若鳥丸の船員さんが非常によくしてくださって、船内見学ツアーや釣りのときもたくさん協力してくださいました。結果はフグばかりで残念だったのですが、子どもたちも喜んでいて、また釣りに行

きたいということを聞いています。

【5. 閉会】

松本教育長

それでは議題は終了しました。本日の定例教育委員会は閉会といたします。ありがとうございました。